

# 佐賀市 2 歴史探訪

## さが じょうほん まる やぐらだい しゅうちく きろく きせき 佐賀城本丸櫓台修築記録の「記石」

佐賀城本丸の範囲は、ほぼ旧赤松小学校敷地(現在の佐賀城本丸歴史館)にあたります。この本丸には南西の隅に「櫓台」がありました。本丸に櫓を建てよう計画されたようですが、どのような櫓が建っていたのかはつきりしません。もしかしたら、櫓台を整備しただけで櫓は建てられなかったのかもしれませんが。

この「櫓台」が、元文3(1738)年に壊れました。この櫓台を修築した時、その記録が石に刻まれ、櫓台の石垣に組み込まれました。そこに刻まれた記録によると、石材は現在の大和町梅野や小城町西郷から集め、基礎には松材を用いたことや作業員の延べ人数などがよく分かります。

この「記石」は、旧佐賀師範学校建設工事の際に発見され、同地が旧赤松小学校になった後にはその庭園内に保存されました。平成5年の赤松小学校の移転に伴ってこの記石も移され、現在は佐賀城鯨の門を模した赤松小学校校門の東側に保管されています。



▲鯨の門を模した赤松小学校の校門と記石

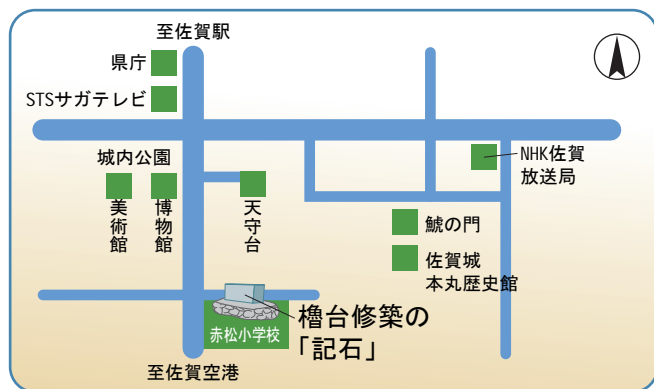


▲記石の表面  
「元文三年五月崩損(損)」とあり、元文三(1738)年5月に櫓台が壊れたことが分かる。

### 一口メモ

同じような「記石」は佐賀城南堀護岸からも発見されており、現在、佐賀県立博物館の東側庭園に保管されています。この「記石」には、佐賀城のお堀の護岸を石垣で構築したことが書かれています。佐賀城のお堀護岸の土留めは、佐賀城ができた時には板を使っていました。

現在、私たちが見ることのできる「赤石の石垣護岸」は最も古いもので、寛政年間(1789～1800年)頃に造られたものです。



県立博物館にある記石



※この情報は、「市報さが 平成12年5月15日号」に掲載されたものに、平成22年3月に加筆修正を加えたものです。